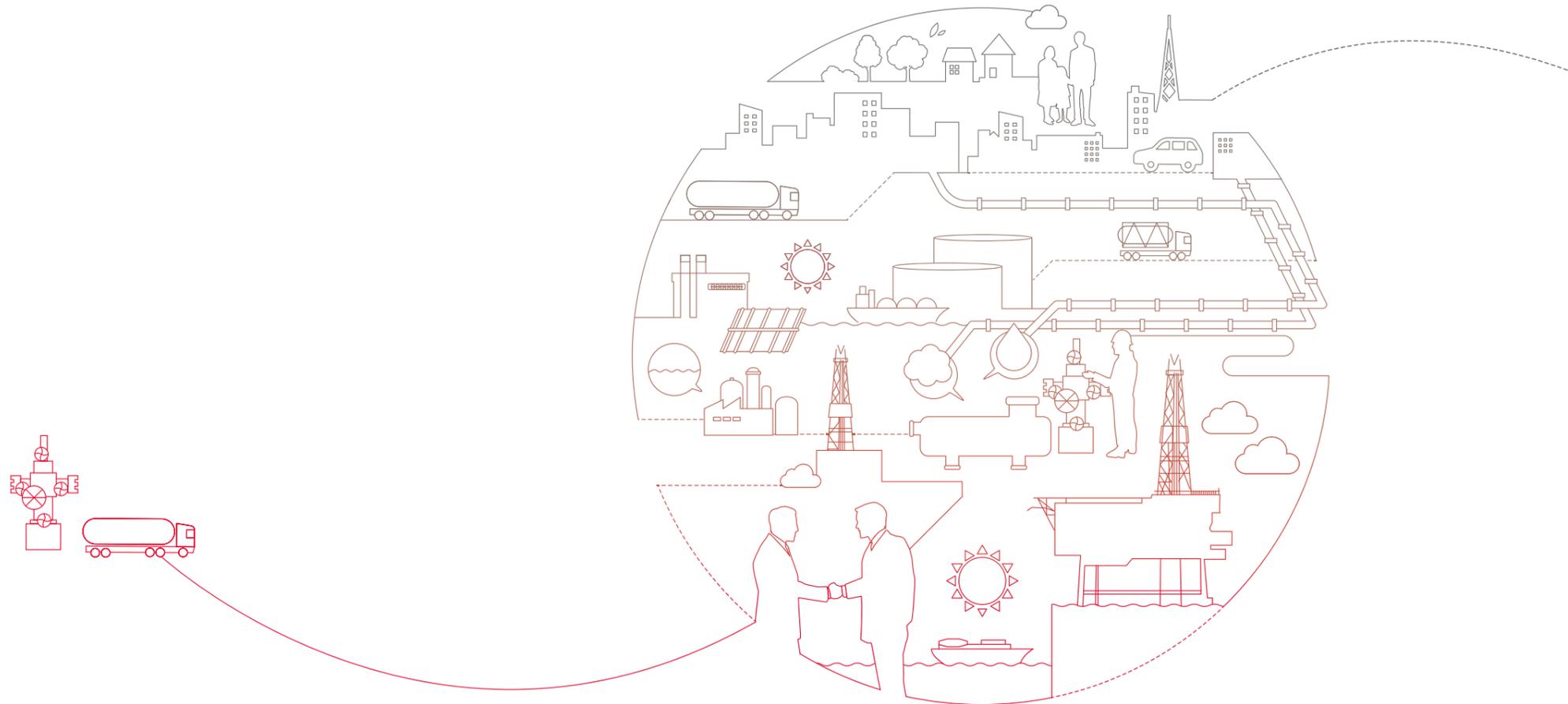


JAPEX

●● 会社案内 2025

JAPEX

石油資源開発株式会社
<https://www.japex.co.jp>



石油資源開発株式会社

● ● 経営理念

私たちは、エネルギーの安定供給を通じた社会貢献を使命とするとともに、持続可能な開発目標の実現に向けた社会的課題の解決に取り組めます。

- 国内外において、石油・天然ガスの探鉱・開発・生産・販売に取り組めます。
- 当社国内インフラ基盤を活用したガスサプライチェーンを、電力供給を加えてさらに強化します。
- 当社の技術と知見を活かした新技術開発と事業化を通じて、エネルギーや気候変動に係る持続可能な社会への課題解決に貢献します。
- すべてのステークホルダーとの信頼を最優先とし、企業としての持続的な発展と企業価値の最大化を図ります。

● ● 目次

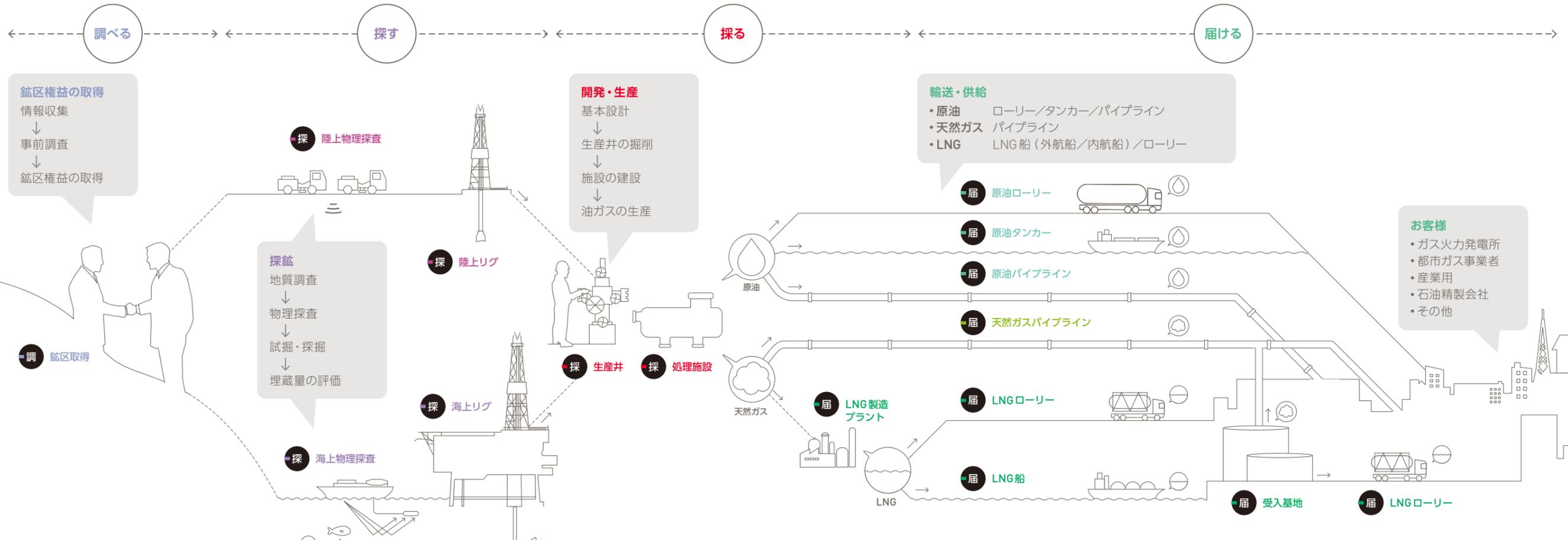
- 2 石油・天然ガスE&Pの概要
- 4 海外での取り組み
- 6 国内での取り組み
- 8 エネルギー供給
- 10 カーボンニュートラル
- 12 エネルギー探査・開発技術
- 14 サステナビリティ
- 16 会社概要



※本冊子は特段の断りがない限り2025年3月31日時点の情報に基づき制作しています。

石油・天然ガス E&P のバリューチェーン

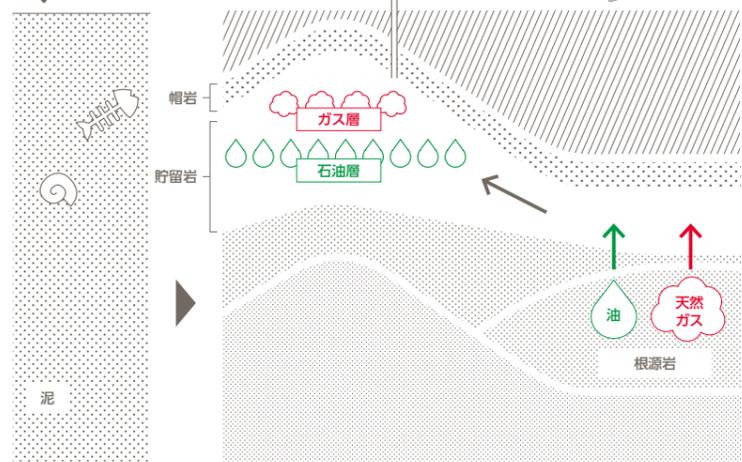
JAPEXは、創業以来、石油や天然ガス産業の上流であるE&P（Exploration and Production、探鉱・開発・生産）と、輸送・供給に取り組んでおり、国内外において多くの実績を持つとともに、蓄積してきた幅広い技術と知見で、エネルギーの安定供給に貢献しています。



石油・天然ガスのなりたち

石油や天然ガスは、海底などに埋積した太古の生物の死骸などが岩石（根源岩）となり、その後地下の高い温度や微生物の分解作用などで数百万から数千万年をかけて変化して生成されるものと言われています。

生成された石油や天然ガスは、地中の割れ目を通して上方へ移動します。その後、隙間が少なくドーム状の岩石（帽岩）の下に位置し、石油や天然ガスがたまりやすい岩石（貯留岩）からなる地層に集まっていきます。



石油

炭化水素を主成分とする液状の可燃性物質全般が一般的に「石油」と呼ばれるもので、地下にある油層から採掘し、ガスや水分などを除いた状態の液体が「原油」です。原油を加熱し沸点の差を利用して蒸留・分解することで、その密度に応じて、LPG（液化石油ガス）、ナフサ（ガソリン）、灯油、軽油、重油、アスファルトなどの石油製品に分類されます。

石油製品はそれぞれの特性に合わせて、密度の高いものは大型機械や船舶、航空機などの動力用燃料や発電燃料として、密度の低いものはペットボトルやプラスチック、繊維など、化学工業製品の原料として利用されています。

天然ガス

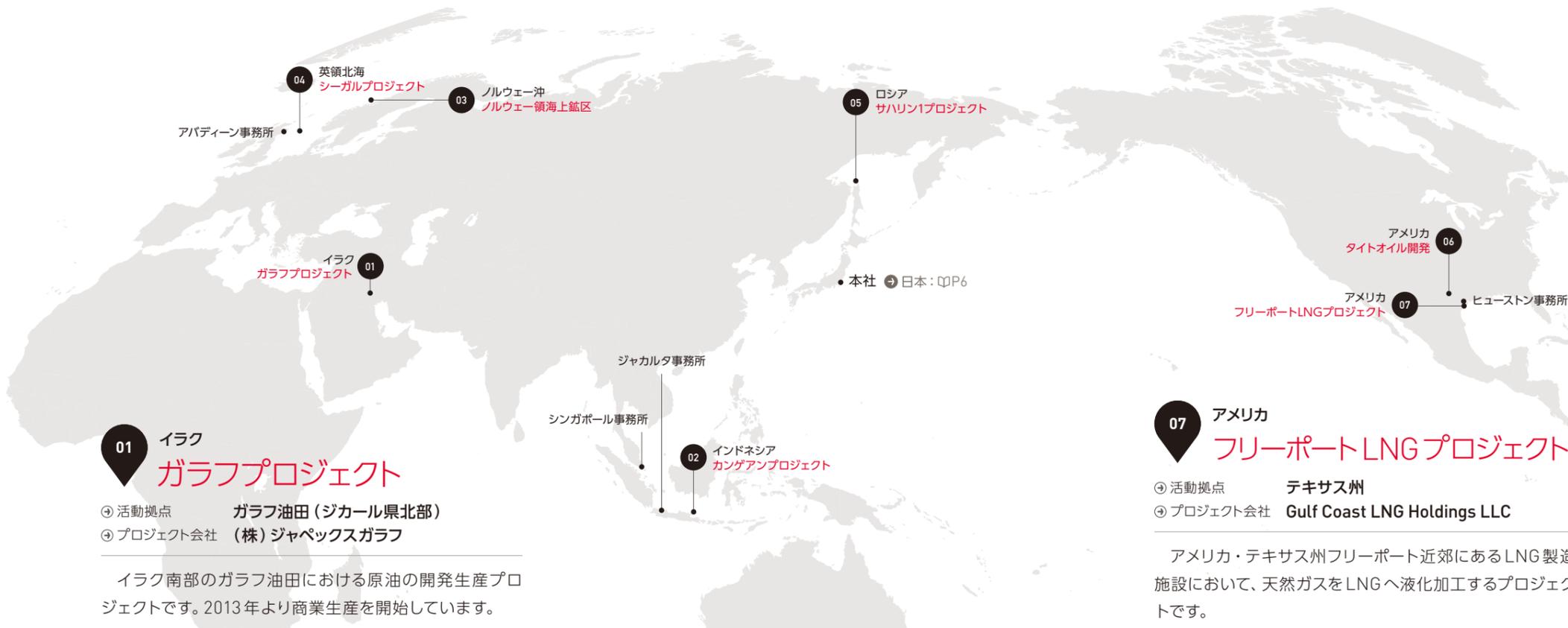
メタンを主成分とする、空気より軽い、無味無臭の可燃性の気体です。燃焼時の二酸化炭素（CO₂）、窒素酸化物（NO_x）、硫黄酸化物（SO_x）の排出量が石油や石炭など他の化石燃料に比べ少ないことから、環境負荷の低いエネルギーの一つとされています。

天然ガスをマイナス162℃まで冷却し液化させたものが、LNG（液化天然ガス）です。液化することによって体積が600分の1になり、タンクローリーによる長距離輸送やタンクでの大量貯蔵が可能になります。日本で消費される天然ガスの大半はLNGを気化したもので、多くは海外から輸入されています。

●● 海外での取り組み

海外プロジェクトの 価値最大化を目指して

既存海外プロジェクトの価値最大化と、
新たなプロジェクトの参画機会の発掘を目指しています。
また、シンガポールを拠点に、柔軟なLNGの調達にも取り組んでいます。



01 **イラク**
ガラフプロジェクト

④ 活動拠点 ガラフ油田 (ジカル県北部)
④ プロジェクト会社 (株) ジャペックスガラフ

イラク南部のガラフ油田における原油の開発生産プロジェクトです。2013年より商業生産を開始しています。



△ 中央生産施設

02 **インドネシア**
カンゲアンプロジェクト

④ 活動拠点 カンゲアン鉱区 (ジャワ島東部海上)
④ プロジェクト会社 Energi Mega Pratama Inc.

インドネシア・ジャワ島東部海域のカンゲアン鉱区の天然ガス開発生産プロジェクトです。
鉱区海域には複数のガス田が点在しており、中長期的な安定供給を見据えた開発や生産を行っています。

04 **英領北海**
シーガルプロジェクト

④ 活動拠点 シーガル鉱区 (アバディーン沖海上)
④ プロジェクト会社 JAPEX UK E&P Ltd.

イギリス・アバディーン沖における原油・天然ガスの開発生産プロジェクトです。2023年より商業生産を開始しています。

03 **ノルウェー沖**
ノルウェー領海上鉱区

④ 活動拠点 ノルウェー領海上鉱区 (ノルウェー領北海、ノルウェー海)
④ プロジェクト会社 JAPEX Norge AS

ノルウェー沖における原油・天然ガスの探鉱および開発生産プロジェクトです。



Ole Jørgen Bratland ©Equinor
△ 海上生産施設

05 **ロシア**
サハリン1プロジェクト

④ 活動拠点 チャイウォ、オドプト、アルクトン・ダギ鉱床 (サハリン島北東沖海上)
④ プロジェクト会社 サハリン石油ガス開発 (株) (SODECO)

ロシア・サハリン島北東海上で主に原油を開発生産するプロジェクトです。当社はサハリン石油ガス開発株式会社 (SODECO) の株主として参画しています。

07 **アメリカ**
フリーポートLNGプロジェクト

④ 活動拠点 テキサス州
④ プロジェクト会社 Gulf Coast LNG Holdings LLC

アメリカ・テキサス州フリーポート近郊にあるLNG製造施設において、天然ガスをLNGへ液化加工するプロジェクトです。



©Freeport LNG Development L.P.
△ LNG製造基地

06 **アメリカ**
タイトオイル開発

④ 活動拠点 テキサス州南部 (イーグルフォード層) オクラホマ州南部 (ウッドフォード層) ワイオミング州南部 (コーデル層)
④ プロジェクト会社 Japex (U.S.) Corp.

アメリカのタイトオイル開発生産プロジェクトです。タイト層 (シェール層) の開発権益を複数所有しています。



△ タイト層開発生産現場

●● 国内での取り組み

さまざまなエネルギーを 安定的に国内へ供給

現在、国内10か所の油ガス田で石油や天然ガスを生産するとともに、国産ガスと海外から調達するLNG（液化天然ガス）とを合わせ、さまざまな方法で天然ガスを国内のお客様へ輸送・供給しています。また、再生可能エネルギーを含む電力など、取り扱うエネルギーの幅を広げています。

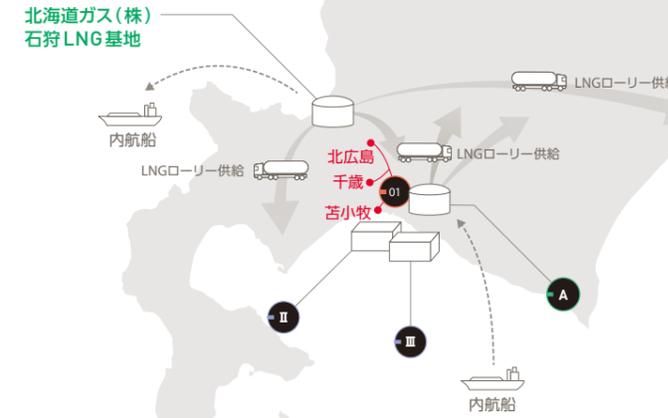
油ガス田

| | 油ガス田名 | 所在地 | 発見年 | 生産開始年 |
|----|---------|--------------------------|-------|-------|
| 01 | 勇払油ガス田 | 北海道苫小牧市 | 1989年 | 1996年 |
| 02 | 申川油田 | 秋田県男鹿市 | 1958年 | 1959年 |
| 03 | 鮎川油ガス田 | 秋田県由利本荘市 | 1989年 | 1995年 |
| 04 | 由利原油ガス田 | 秋田県由利本荘市 | 1976年 | 1984年 |
| 05 | 余目油田 | 山形県東田川郡庄内町 | 1960年 | 1960年 |
| 06 | 岩船沖油ガス田 | 新潟県胎内市の胎内川河口から約4キロメートル沖合 | 1983年 | 1990年 |
| 07 | 紫雲寺ガス田 | 新潟県新発田市 | 1962年 | 1963年 |
| 08 | 東新潟ガス田 | 新潟県新潟市 | 1959年 | 1959年 |
| 09 | 吉井ガス田 | 新潟県柏崎市 | 1968年 | 1968年 |
| 10 | 片貝ガス田 | 新潟県小千谷市 | 1960年 | 1960年 |



岩船沖油ガス田

- ガス供給施設
- 発電所
- パイプライン



網走バイオマス発電所
2号機・3号機

ガス供給施設

| | 施設名 | 所在地 |
|---|---------------------|-----------|
| A | 勇払LNGプラント/勇払LNG受入基地 | 北海道苫小牧市 |
| B | 相馬LNG基地 | 福島県相馬郡新地町 |



相馬LNG基地

発電所・蓄電所

| | 発電所名 | 種別 | 所在地 | 運営会社 |
|------|-----------------------|-----------|-----------|--------------------------------------|
| I | 網走バイオマス発電所 2号機・3号機 | バイオマス | 北海道網走市 | (同) 網走バイオマス第2発電所 (同) 網走バイオマス第3発電所 |
| II | 北海道事業所メガソーラー | 太陽光 | 北海道苫小牧市 | 石油資源開発(株) |
| III | 勇払太陽光発電所 | 太陽光 | 北海道苫小牧市 | ソーラーパワー苫小牧(株) |
| IV | 見附太陽光発電所 | 太陽光 | 新潟県見附市 | 石油資源開発(株) |
| V | 福島天然ガス発電所 | 天然ガス(LNG) | 福島県相馬郡新地町 | 福島ガス発電(株) |
| VI | 田原バイオマス発電所 | バイオマス | 愛知県田原市 | 田原バイオマス発電所(同) |
| VII | 大洲バイオマス発電所 | バイオマス | 愛媛県大洲市 | 大洲バイオマス発電(株) |
| VIII | 長府バイオマス発電所 | バイオマス | 山口県下関市 | 長府バイオパワー(同) |
| IX | JAPEX美浜蓄電所 | 蓄電所 | 千葉県千葉市 | 石油資源開発(株) |
| X | 新潟松浜太陽光発電所 | 太陽光 | 新潟県新潟市 | 石油資源開発(株) |

環境負荷の低いエネルギーを 安定的に供給するサプライチェーン

国産の天然ガスと海外から調達したLNG（液化天然ガス）をあわせて、さまざまなインフラや手法を活用した天然ガスサプライチェーンで供給しています。またLNGを燃料とする、天然ガス発電にも携わっています。



TOPICS 01 国内天然ガス供給ネットワーク

国内で生産した天然ガスと海外から受け入れたLNGをお客様に安定供給するため、生産中のガス田やLNG基地を高圧ガスパイプライン網でつないだ独自の供給ネットワークを構築、運用しています。

新潟・仙台間ガスパイプラインを中心に総延長800キロメートルを超えるガスパイプライン網は、新潟エリアで生産したガスと、日本海側ならびに太平洋側のLNG受入拠点で保管するLNGを気化したガスとをあわせて供給しています。また、このパイプライン網を活用した季節の需給変動対応として、新潟県の紫雲寺ガス田（●Q.P.7-07）では、夏場に他のガス田で生産した天然ガスを貯蔵し冬場にそのガスを再生産する、天然ガス地下貯蔵を行っています。



△ 新潟・仙台間ガスパイプライン

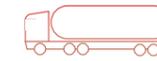
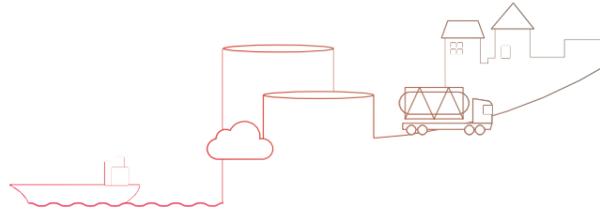
海外から来る外航船からのLNG受入や国内拠点間での内航船によるLNG輸送の拠点となるLNG基地も、当社の供給ネットワークで大きな役割を果たしています。

相馬LNG基地（●Q.P.7-B）は、国内最大級23万キロリットル地上式LNGタンク2基を擁する、当社の供給ネットワークの中核拠点です。海外からのLNG受入と貯蔵、LNGを気化したガスのパイプラインへの送出、液体のままのお客様先へのLNG出荷、そしてLNG内航船による他の拠点へのLNG輸送へ対応しています。

勇払LNGプラント/勇払LNG受入基地（●Q.P.7-A）は、内航船で受け入れたLNGを気化したガスと勇払油ガス田で生産した天然ガスをあわせて、北海道内へ供給しています。



△ 相馬LNG基地



TOPICS 02 LNGサテライト供給

ガスパイプライン網が整備されていない地域へLNGを液体のまま輸送するLNGサテライト供給も、天然ガス供給ネットワークの重要な要素の一つです。

より広いエリアのお客様へLNGを供給するため、北海道や東北エリアにおいてLNG受入基地から専用ローリーでLNGを出荷しています。

LNGの新たな需要への対応

環境負荷の低いLNGへの燃料転換を含む需要に対応するため、国内では都市ガス会社などと協力したエネルギーサービスの提供、海外では今後の天然ガス需要拡大が見込まれる東南アジアなどでのLNG供給インフラの構築などに取り組んでいます。



△ LNGローリー出荷設備（相馬LNG基地）



TOPICS 03 天然ガス発電

化石燃料のなかでもっともCO₂排出量が少なく環境負荷の低いLNGを燃料とする天然ガス発電は、クリーンなエネルギーとしてのみならず、中長期的な日本のエネルギーの一端を担う電力供給源としても期待されています。



△ 福島天然ガス発電所（福島ガス発電（株））

相馬LNG基地に隣接する福島天然ガス発電所は、最大出力118万キロワットの、LNGを気化したガスを燃料とする発電所です。実績のあるガスタービン・コンバインドサイクル（GTCC）方式の発電設備に最新の要素技術を加えることで、世界最高クラスの発電効率を実現しています。また、主な設備は東日本大震災級の災害に耐える設計になっています。

発電燃料LNGの受入や貯蔵、LNGを気化したガスの発電所への供給は、発電所運営主体である福島ガス発電（株）から当社が受託し、相馬LNG基地で実施しています。



カーボンニュートラル社会 実現へ貢献する 新たな事業開発の推進

世界的な2050年のCO₂実質排出量ゼロ（ネットゼロ）の実現へ貢献するため、E&P事業で培った地下に関する知見や、さまざまなプロジェクトの管理経験などを活かしながら、再生可能エネルギー事業の拡大や、CO₂の有効活用・地中貯留技術の開発に取り組んでいます。



TOPICS 01 再生可能エネルギー



△ 北海道事業所メガソーラー

太陽光発電事業では、北海道苫小牧市のJAPEX北海道事業所メガソーラー・勇払太陽光発電所、新潟県見附市の見附太陽光発電所、新潟県新潟市の新潟松浜太陽光発電所が稼働中です。

現在参入している案件に加え、今後も国内外で幅広い案件の発掘、開発、投資を行い、2050年カーボンニュートラル社会の実現に貢献することを目指します。

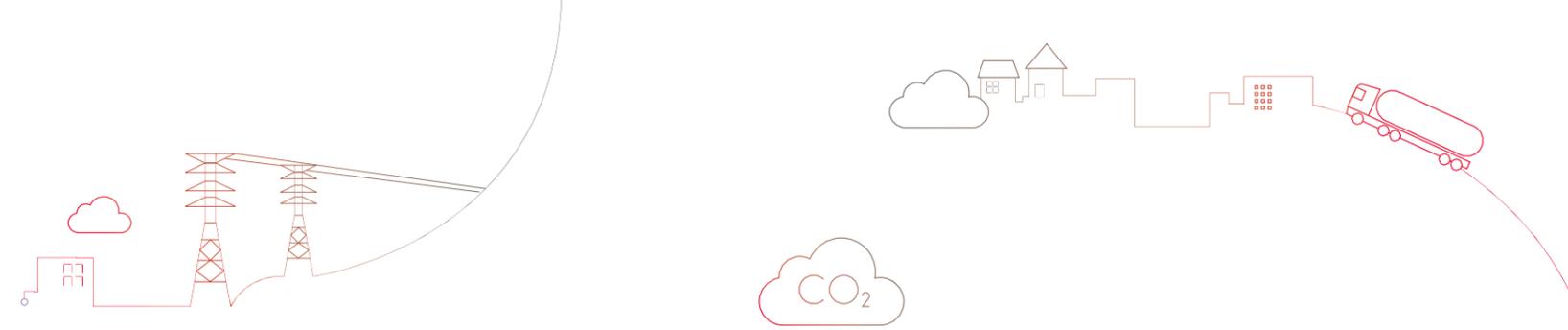
2050年のカーボンニュートラル社会実現に向けて、JAPEXは再生可能エネルギー事業の拡大を推進しています。

バイオマス発電事業では、北海道網走市の網走バイオマス発電所（2号機3号機）、愛媛県大洲市の大洲バイオマス発電所、山口県下関市の長府バイオマス発電所、愛知県田原市の田原バイオマス発電所に参画しています。

長府、大洲、ならびに田原の各バイオマス発電プロジェクトで使用するバイオマス発電燃料については、当社が供給を行っております。当社はバイオマス燃料の供給業務の実行においては、「バイオマス発電燃料供給業務におけるバイオマス製品認証製品の取扱いに関するコミットメント」を定めるとともに、国際的な第三者機関による認証を取得しています。



△ 大洲バイオマス発電所



TOPICS 02 CCS/CCUS

JAPEXは、これまでに培ってきた石油・天然ガス開発生産技術や知見を活かし、国内外でCO₂地中貯留の早期実用化・事業化を目指しています。

国内では、当社を含む民間各社が出資する日本CCS調査（株）の一員として北海道・苫小牧市のCCS大規模圧入実証試験へ参画しています。

また、2030年までのCO₂圧入を目指す政府の先進的CCS事業として受託した、北海道・苫小牧エリア、新潟県・東新潟エリア、マレーシア・サラワク州での設計作業を、パートナー企業と協力し進めています。これらの作業では、将来的なCO₂の排出源や圧入地点に加え、CO₂の利活用先などさまざまな拠点をつなぐハブ&クラスター型の事業展開を視野に入れています。

海外では、CCS/CCUS事業の制度が整ったアメリカに拠点を置くBlue Spruce Operating LLCへの資本参画を通じて商業化に向けた事業評価を実施しています。インドネシアにおいても、CCUSの実証実験やバイオマス発電とCCSを組み合わせたBECCSの適用性評価に参画しています。



△ 苫小牧CCS実証プロジェクト地上設備
写真提供：日本CCS調査（株）

CCS/CCUSとは

二酸化炭素（CO₂）の実質排出量をゼロにする「カーボンニュートラル」の実現への貢献が期待される方法として、工場や発電所などで排出される排ガスからCO₂を回収して地中に圧入し安定的に貯留するCCS（Carbon dioxide Capture and Storage：CO₂の回収・貯留）や、CCSにCO₂-EOR/EGR（Enhanced Oil/Gas Recovery：原油・天然ガスの増進回収）をはじめとしたCO₂の利活用を含むCCUS

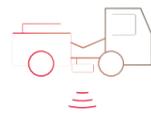
（Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage：CO₂の回収・有効活用・貯留）が注目されています。事業の推進には、CO₂の貯留に適した地層の調査や、地中に圧入する坑井の掘削、そして長期かつ安定的に貯留するための技術の確立や知見が必要であり、当社はこれまで石油・天然ガス開発事業で培ってきた技術・サービスを当社グループ単独でCCS事業に提供することができます。

CCS（CO₂の回収・貯留）/CCUS（CO₂の回収・有効活用・貯留）の流れ



エネルギー資源開発を支える 次世代を見据えた技術

JAPEXの持つ地下を探る技術は、石油・天然ガス開発にとどまらない活用が期待されています。また、シェール層や、将来の国産エネルギーとして期待されるメタンハイドレートなど、“非在来型資源”の開発生産技術の確立と向上にも、継続的に取り組んでいます。



TOPICS 01 地下探査技術

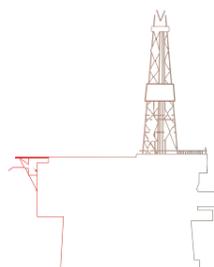
石油・天然ガスの探鉱段階では、人間の目では直接見ることのできない地下の岩石や地盤の構造などの探査を行い、石油や天然ガスの賦存状況を確認します。そのなかでも、物理探査と呼ばれる調査は、特殊な設備や技術が必要です。



△パイプロサイズ車による陸上弾性波探査の様子

物理探査の代表例として、弾性波探査があります。地表付近で人工的に振動を起こし、地下で地層の境界面などにぶつかり跳ね返ってきた反射波のデータを地表で記録してコンピュータで処理解析するもので、広範囲の地下構造形態を把握するためには最も効果的な手法です。陸上ではパイプロサイズという特殊車輛や爆薬震源を用いて地面を振動させ、海上ではエアガンなどで振動を起こし、地表または海面付近に設置した受振器で地下や海底からの反射波を測定します。

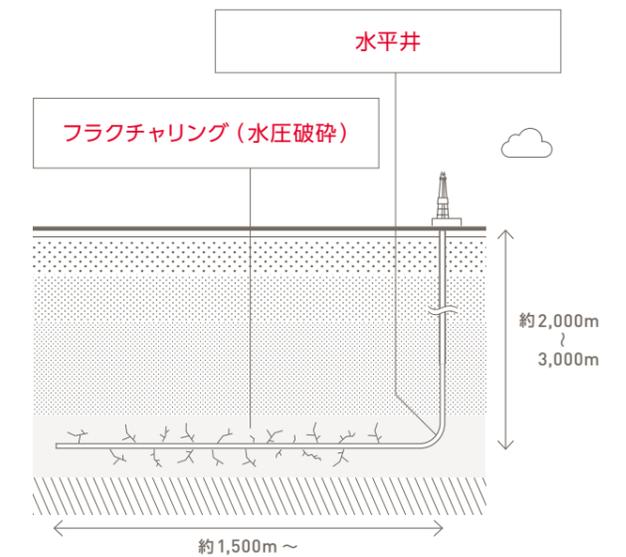
JAPEXはこれらの調査を自社グループ内で完結できる強みを活かし、得られたデータを石油・天然ガスの探鉱や開発のほか、CCS (Carbon dioxide Capture and Storage: CO₂の回収・貯留) やCCUS (Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage: CO₂の回収・有効活用・貯留) の貯留層評価などにも活用しています。



TOPICS 02 タイト層（シェール層）開発技術

浸透率の低い岩石からなるタイト層（シェール層）に存在する原油や天然ガスは、タイトオイル/ガス（シェールオイル/ガス）と呼ばれています。これらは従来の技術では開発生産が難しかったものの、水平に井戸を掘る水平井掘削技術と、高圧の水の力で岩石を砕き生産性を向上させるフラクチャリング（水圧破碎）技術の汎用化で、2000年代以降に商業生産が本格化しました。

JAPEXは国内外でこれらの開発生産に携わっています。海外では、アメリカ・テキサス州でタイトオイルの開発生産に、参画しています。国内では、2014年に秋田県・鮎川油ガス田で国内初となるタイトオイルの商業生産に成功したほか、秋田県・福米沢油田では多段フラクチャリングによるタイトオイル開発実証試験を行うなど、国内におけるタイトオイル開発の可能性を追求しています。



△シェールガス・タイトオイル開発・生産井概念図



TOPICS 03 メタンハイドレート

メタンハイドレートは、天然ガスの主成分であるメタンと水が結合した氷状の物質で、水深500メートルを超える低温かつ高圧の海底面下などに存在しています。日本の近海でも豊富な存在が確認されており、将来の国産エネルギー資源の可能性の一つとして期待されています。

現在は、商業化を目指す政府のプロジェクトとして、安定生産技術の開発や次回海洋産出試験に向けた準備などが進んでいます。当社は、石油開発会社やエンジニアリング会社など民間企業が出資する日本メタンハイドレート調査（株）の一員として、砂層型メタンハイドレートの技術開発に貢献しています。



△人工メタンハイドレートが燃焼している様子
写真提供：MH21-S 研究開発コンソーシアム

ステークホルダーとの信頼関係による持続的な成長と企業価値の向上

「エネルギーの安定供給」という使命を通じた JAPEX の持続的な成長や企業価値の向上には、事業を遂行する地域の皆様、お客様や関係先、そして従業員との信頼関係が不可欠です。ステークホルダーに信頼される企業を目指し、安全・安心の確保や地域貢献活動に加え、持続可能な社会の実現への貢献を視野にいたした環境や人材のマネジメントに取り組んでいます。



TOPICS 01 労働安全衛生と危機管理

労働安全衛生・環境 (Health, Safety and Environment : HSE) を事業活動の最優先課題に位置づけ、その方針として「JAPEX HSE ポリシー (労働安全衛生・環境方針)」を掲げ、HSE マネジメントシステム (HSE-MS) を構築し、当社事業に適用しています。HSE-MS にもとづき、HSE に関するリスクの適切な管理と低減、法令遵守、従業員の健康管理などに取り組むとともに、実施状況は適切に監査し、適宜改善を図っています。また HSE の理解浸透と HSE 文化向上のため、教育プログラムや全従業員向けの外部講師による講演を実施しています。

国内拠点では、バーチャリアリティ (VR) による危険体感機器を導入しています。昨今の現場では、各種の安全対

策により、危険な状態を感じ、知り、回避する等の経験や機会がほとんどなくなっていますが、事故発生は皆無ではありません。実作業や現場での対応経験不足の補完ツールとして活用しています。

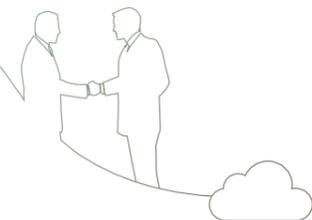
HSE に危機管理 (Security) を加えた HSSE (Health, Safety, Security and Environment) として、各事業場や従業員の安全確保と危機管理に取り組んでいます。なお、HSSE に関する基本方針や重要事項は、HSE 統括部担当役員を委員長とした関係役員で構成される HSSE 委員会で審議し決定しています。

海外拠点で従事する従業員と本社従業員向けには、海外有事対応訓練の実施に加え、海外安全に関する情報収集・分析・評価、事件情報や注意喚起の発信、海外出張者や駐在予定者向け海外安全講座などによる、危機管理意識の向上にも平時から取り組んでいます。

また、大地震などの災害や感染症の大規模な流行など、緊急事態発生時の事業継続を想定した「事業継続計画 (BCP)」を策定しています。平時から緊急事態発生に備えるため、初動マニュアルの整備運用、事業場での防災訓練、従業員安否確認や徒歩帰宅の訓練などを、定期的実施しています。



△ 新入社員教育での VR 体感訓練の様子



TOPICS 02 環境と生物多様性への配慮

国内外の事業場で省エネなどの温室効果ガス (Green House Gas : GHG) 削減施策を実施し、排出量削減に努めています。また、土壌、水資源、大気汚染リスクを特定し、必要な予防措置を講じています。事業上使用量が多い水資源については、再利用による資源循環や、公共水域へ排水する際の環境への配慮を徹底しています。

生態系の保全を含む周辺環境への影響低減にも取り組んでいます。事業の検討段階で環境影響評価を行い、その結果を踏まえた対策を講じているほか、事業開始後も、リスクと対策の見直しや周辺環境のモニタリングを継続しています。



2019年 現在

△ 福島ガス発電 (株) 福島天然ガス発電所の現地在来種を中心とした緑化



TOPICS 03 地域社会との良好な関係



△ 相馬事業所が開催した出前授業の様子

国内外の事業地域で信頼される企業であり続けることを目指し、さまざまなステークホルダーとの対話や交流、周辺地域への貢献活動を行っています。

国内では、自治体主催のイベントへの参加や協力、地域の学校での出前授業の実施や当社施設の見学、職場体験の受け入れなどを行っています。また、当社拠点がある地域のイベントやボランティア活動などにも参加しています。

当社が参画する海外プロジェクトでも、周辺地域の社会インフラ整備や寄付・支援、地域コミュニティなどとの協働・交流活動を行っています。

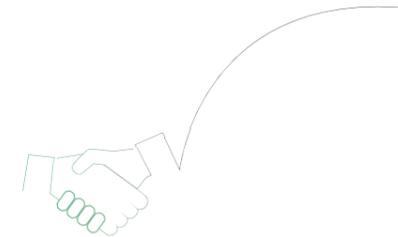


TOPICS 04 選ばれる魅力ある職場

多様な従業員一人ひとりが働きがいを感じ、最大限の能力発揮を実現するとともに、変革に向けたイノベーションを創出していく観点から、ダイバーシティ推進に取り組んでいます。従業員のキャリア開発においては、キャリア開発制度による個人主体のキャリア開発や、能力・スキルの形成・向上を支援する教育プログラムを提供しています。また、「JAPEX 健康経営宣言」にもとづく健康経営推進体制を整備し、法定の定期健診、従業員の健康増進を支援するプログラムの実施、ワーク・ライフ・バランスの推進などを行っています。



△ 本場で開催した経営人材育成研修の様子



●● 会社概要

| | | | |
|-------|-------------------------|------|---|
| 社名 | 石油資源開発株式会社 | 従業員数 | 1,641名(連結) (2024年3月31日現在) |
| 設立年月日 | 1970年4月1日 | 事業内容 | 石油、天然ガス、その他のエネルギー資源の探鉱、開発、生産、販売と、これらに関連する掘削などの請負事業、太陽光・風力・地熱・バイオマスその他の再生可能エネルギー資源の開発、電気の供給等 |
| 資本金 | 14,288,694,000円 | | |
| 代表者 | 代表取締役社長 社長執行役員 山下 通郎 | | |

国内外拠点

本社：
〒100-0005
東京都千代田区丸の内1-7-12
サピアタワー
電話 03-6268-7000 (代表)



△ 本社

北海道事業所：
〒059-1364
北海道苫小牧市宇沼ノ端 134-648
電話 0144-51-2205 (代表)

秋田事業所：
〒011-0901
秋田県秋田市寺内字蛭根 85-2
電話 018-866-9511 (代表)

長岡事業所：
〒940-8555
新潟県長岡市東蔵王 2-2-83
電話 0258-31-1401 (代表)

相馬事業所：
〒979-2611
福島県相馬郡新地町駒ヶ嶺
字今神 159-2
電話 0244-26-9846 (代表)

仙台事務所：
〒980-0013
宮城県仙台市青葉区花京院 1-1-20
花京院スクエア 5階
電話 022-224-0731 (代表)

技術研究所：
〒261-0025
千葉県千葉市美浜区浜田 1-2-1
電話 043-275-9311 (代表)

ヒューストン事務所：
5051, Westheimer, Suite 425
Houston, TX 77056, U.S.A.
電話 +1-713-334-9800

ジャカルタ事務所：
Gama Tower 19th Floor,
Jl. H.R. Rasuna Said Kav. C-22, Jakarta
12940 Indonesia
電話 +62-21-2519-9938

アバディーン事務所：
Neo House, Riverside Drive,
Aberdeen, AB11 7LH, UK
電話 +44-12-2401-3480

シンガポール事務所：
10 Collyer Quay,
Level 40 Ocean Financial Centre,
Singapore 049315
電話 +65-6808-6050

●● 主なグループ会社

秋田県天然瓦斯輸送(株)
エスケイエンジニアリング(株)
エスケイ産業(株)
北日本オイル(株)
白根ガス(株)
(株)ジャベックスパイプライン
(株)地球科学総合研究所
(株)物理計測コンサルタント
北日本防災警備(株)

日本海洋石油資源開発(株)
(株)ジオシス
(株)ジャベックスエネルギー
(株)ジャベックスガラフ
東北天然ガス(株)
(株)テルナイト
福島ガス発電(株)
サハリン石油ガス開発(株)
(同)網走バイオマス第2発電所
(同)網走バイオマス第3発電所

大洲バイオマス発電(株)
Japex (U.S.) Corp.
JAPEX UK E&P Ltd.
JAPEX Insurance Ltd.
JAPEX Norge AS
Energi Mega Pratama Inc.
Kangean Energy Indonesia Ltd.
EMP Exploration (Kangean) Ltd.
Blue Spruce Operating LLC
Gulf Coast LNG Holdings LLC

●● 沿革

1950～1960年代

- 1955.12 ○ 石油資源開発株式会社法にもとづく特殊会社として創立
- 1956.7 ○ 当社初の国内油田となる北海道・平取油田発見(生産期間1956～1961年)
- 1965.5 ○ 石油資源開発株式会社法の改正により事業範囲が海外にまで拡大
- 1967.10 ○ 石油開発公団設立にともない同公団へ統合



△ 会社創立時の記念式典の様子

1970～1980年代

- 1970.4 ○ 石油開発公団から分離し民間会社として再出発
- 1971.5 ○ 日本海洋石油資源開発株式会社設立
- 1972.3 ○ 日本海洋石油資源開発設立後初の海洋油田となる新潟県・阿賀沖油ガス田発見(生産期間1976～1998年)



△ 阿賀沖プラットフォーム

1990～2000年代

- 1996.3 ○ 新潟・仙台間ガスパイプライン開通
- 2000.3 ○ LNGタンクコンテナ鉄道輸送を開始
- 2003.1 ○ カナダ・オイルサンドプロジェクトでビチューメンの生産を開始(2021年当社事業終結)
- 2003.12 ○ 東京証券取引所市場第一部に株式を上場
- 2007.5 ○ インドネシア・カンゲアンプロジェクト参画



△ 新潟・仙台間ガスパイプライン

2010年代～

- 2011.11 ○ 勇払LNG受入基地操業開始
- 2012.8 ○ アメリカ・タイトオイル開発事業参画
- 2013.4 ○ カナダ・シェールガスプロジェクト参画(2021年当社参画終了)
- 2013.8 ○ イラク・ガラフプロジェクトで原油の生産を開始
- 2014.6 ○ 北海道事業所メガソーラー稼働開始
- 2014.10 ○ 英領北海・シーガルプロジェクト参画
- 2018.3 ○ 相馬LNG基地操業開始
- 2020.4 ○ 福島天然ガス発電所営業運転開始
- 2022.4 ○ 東京証券取引所上場市場変更(プライム市場へ移行)
- 2022.10 ○ 網走バイオマス第2発電所/同第3発電所営業運転開始
- 2023.5 ○ ノルウェー領海上鉱区で探鉱・開発事業に参画
- 2024.6 ○ アメリカ・フリーポートLNGプロジェクト参画



△ 相馬LNG基地LNG外航船初入港



最新情報などは当社ウェブサイトをご覧ください。



<https://www.japex.co.jp>